

2025 年 7 月 29 日

説明会等結果報告書

鳩山町長宛て

報告者 住 所 東京都八重洲 2- 1- 1
Yanmar Tokyo 12 階
氏 名 株式会社パワーマップ
代表取締役 孫 斯 美
(法人にあっては主たる事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)
電話番号 090-2319-9939



鳩山町適正な蓄電池設備の設置及び管理に関する要綱第 8 条第 7 項の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

蓄 電 施 設 の 名 称	埼玉県鳩山町発電所
設 置 場 所	鳩山町
実 施 方 法	☒ 説明会 ☐ その他 ()
実 施 日 時	2026 年 7 月 25 日 (土曜日) 13 時 30 分～15 時
実 施 場 所	大豆戸公会堂
事 業 者	住所：東京都八重洲 2- 1- 1 Yanmar Tokyo 12 階 氏名：株式会社パワーマップ 代表取締役 孫 斯 美 電話：090-2319-9939
説 明 者	住所：大阪府堺市北区南花田町 24-3 氏名：プロスパーシーズ株式会社 代表取締役 田端 敬二 電話：090-8823-9139
説 明 会 参 加 者	説明対象者 (5 名) 参加者人数 (19 名)
協 議 相 手 方 名	添付資料をご参照ください。
要望・意見等の内容及びその対応等	添付資料をご参照ください。

添付書類

説明概要、説明会等において配布又は使用した資料、隣接住民等からの意見とその対応策についてまとめた書類等を添付してください。

7 説 明 者	住所：大阪府堺市北区南花田町 24-3 氏名：プロスパーシーズ株式会社 代表取締役 田端 敬二 電話：
	住所：福岡県田川郡川崎町大字川崎 960 氏名：有限会社 中村測量設計事務所 一級建築士 田中 眞 (大臣) 118218 号 電話：
	住所：埼玉県比企郡鳩山町大豆戸 4 番地 1 氏名：豊島 徳行 電話：
	住所：東京都八重洲 2- 1- 1 Yanmar Tokyo 1 2 階 氏名：株式会社パワーマップ代表取締役 孫斯美 電話：
	住所 氏名 電話
	住所 氏名 電話
	住所 氏名 電話
	住所 氏名 電話

要望・意見等の内容	対応等
添付資料 1 をご参照ください。 住民参加者名簿は添付資料の 2 をご参照ください。	添付資料 1 をご参照ください。

住民説明会実施報告書

【概要】

事業名：鳩山蓄電所（系統用蓄電池設備）設置計画

開催日時：令和 8 年 7 月 25 日 午後 1 時 30 分から午後 3 時 00 分まで

開催場所：大豆戸公会堂

主催：株式会社パワーマップ

【出席者】

事業者側：株式会社パワーマップほか 5 名

住民 等：計画地周辺住民 14 名

他区域住民 3 名

行政：鳩山町役場 2 名

出席者合計 24 名

【説明内容】

事業者より、事業概要、施設計画、安全対策、排水計画、道路計画、農地転用手続、環境配慮等について説明を行いました。

【質疑応答】説明終了後、出席者との質疑応答を実施しました。

主な質問及び事業者からの回答は、以下のとおりです。

回答 1 事業概要

本事業は、系統用蓄電池事業です。

昼間に余剰となる電力を蓄電し、夕方や夜間など電力需要が高まる時間帯に、東京電力等の指令に基づき放電することで、電力系統の安定化に寄与することを目的としています。

設備規模は約 100MW 級であり、約 4 時間から 6 時間の充放電が可能な蓄電システムを計画しています。

回答 2 事業体制

現在は、各種許認可の取得及び関係機関との協議を進めている段階です。

技術協議は日新電機株式会社と進めており、施工については株式会社ミライト・ワン等の施工会社と協議を行っています。開発設計は一級建築士が担当し、関係法令及び技術基準に基づき設計を進めています。

回答 3 東京電力との協議状況

東京電力とは約 2 年前から系統接続に関する協議を進めています。

現在は、住民説明会終了後の次の手続へ進む段階であることを説明しました。

回答 4 造成計画

造成工事については、計画地内で切土及び盛土のバランスを取り、発生土は原則として場内で処理する計画です。場外への大量の土砂搬出は行わない計画であり、大量のダンプ車両による運搬は予定していないことを説明しました。

添付資料 1

回答 5 雨水排水計画

現況の雨水流出状況を調査した上で、排水計画を作成しています。

今後、ボーリング調査及び浸透試験等を実施し、土壌の浸透能力を確認した上で、県その他の関係行政機関との協議結果に基づき、浸透施設等の規模及び数量を決定します。

必要に応じて、計画内容を見直すことを説明しました。

回答 6 安全管理体制

現場管理体制及び緊急連絡体制を整備し、関係者間で情報共有を行います。

草刈りや現場管理についても継続して実施し、周辺の農地（畑）及び生活環境への影響防止に努めることを説明しました。

回答 7 道路計画

工事車両は、計画された進入ルートを利用する予定です。

住民から、道路の狭小部分について道路幅約 4m を確保してほしいとの要望がありました。これに対し、事業用地側をセットバックし、道路幅を確保する計画であることを説明しました。

回答 8 農地転用

現在は農地転用許可取得前の段階です。

今後、農地法に基づく正式な農地転用許可申請手続を進めることを説明しました。

回答 9 地盤及び基礎構造

今後、ボーリング調査を実施し、地盤の地耐力を確認します。

調査結果に応じて必要な地盤改良を行い、安全性を確保した上で基礎を設計します。

設備の設置方法については、鉄骨架台方式を基本として検討していることを説明しました。

回答 10 騒音

低騒音型の設備を採用し、設備付近における騒音レベルは約 60 デシベル程度を想定していることを説明しました。また、本計画地は周辺に住宅がほとんど存在しない立地であり、周辺の生活環境への影響を考慮して本地点を選定したことを説明しました。

回答 11 電磁波

電気設備であるため、電磁波を完全にゼロにすることはできませんが、関係法令及び技術基準に基づき、周辺への影響を最小限に抑える設計を行うことを説明しました。

回答 12 蓄電池の寿命

蓄電池の耐用年数は、約 20 年を想定しています。

耐用年数を迎えた場合には、設備全体を直ちに撤去するのではなく、必要に応じて蓄電池を更新しながら継続運用することを基本方針としていることを説明しました。

回答 13 使用する蓄電池

本事業で使用する蓄電池は、中古品ではなく、新品を採用する計画であることを説明しました。

回答 14 事業費

本事業の総事業費は、約 100 億円規模を想定していることを説明しました。

回答 15 計画地の選定理由

添付資料 1

本計画地は、土地所有者から相談を受けたことがきっかけとなりました。

当該農地（畑）は、シカ、イノシシ、アライグマ等による害獣被害が継続して発生していました。害獣被害への対策費用の負担も大きく、農業収入では採算が取れず、赤字経営が続き、農業経営の継続が困難な状況となっていました。

そのため、土地所有者から土地の有効活用について相談を受け、本計画地として検討を進めることとなった旨を説明しました。

回答 16 環境への配慮

北側の山林部分については、現状のまま保全する計画です。

本事業は、農地（畑）の部分を中心として計画していることを説明しました。

今後も県及び関係行政機関と協議を行い、必要な環境配慮を行いながら事業を進めていくことを説明しました。

回答 17 沿線住民への説明

地下ケーブルのルートが確定した段階で、道路工事等の影響を受ける可能性がある沿線住民に対し、必要な説明を行う予定であることを説明しました。

回答 18 蓄電池の安全性

本事業で採用予定のリン酸鉄リチウムイオン電池（ LiFePO_4 ）は、現在、世界で最も安全性が高い蓄電池の一つであり、電気自動車や系統用蓄電所でも広く採用されています。

本事業では、三元系リチウムイオン電池のような熱暴走や発火の蓄電池と異なります。また、消防法その他の関係法令に基づく安全基準を遵守し、必要な消防設備を備えた上で設置及び運用を行うことを説明しました。

以上、住民説明会における主な説明内容及び質疑応答について報告いたします。

令和 8 年 7 月 26 日

株式会社パワーマップ

代表取締役 孫 斯美